

平成18年度ヨコワ情報

平成 18 年 12 月 15 日
鹿 児 島 県 水 産
技 術 開 発 セ ン タ ー



1 今後のヨコワの来遊予測

本年12月から来年4月までの本県へのヨコワの来遊は、次のように予測されます。

漁獲量は、前年（41トン：中水準*）および平年（80トン：中水準*）を下回り、**低水準*（20トン未満）**となるでしょう。

主漁期は1～4月となり、漁況は**低調**に推移するでしょう。

魚体は、平成18年夏生まれの**1～2kgサイズ**のヨコワが主体となるでしょう。

ただし、海況によっては、一時的に1～2kgサイズのまとまった来遊が期待されます。

* 漁獲量を低・中・高の3水準に区分し、評価しています。

低水準：20トン未満 中水準：20トン以上100未満 高水準：100トン以上

2 予測の根拠

本県海域で漁獲されるヨコワは、長崎県海域から来遊すると考えられており、長崎県海域のヨコワ漁況が好調の場合、本県海域へのヨコワの来遊量が多い傾向があることから、長崎県の現在までの漁獲状況から、本県への来遊量を予測しています。

今期、現在まで得られている長崎県海域他の情報は、次のとおりです。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1)長崎県対馬・五島海域の漁模様 | 低調 |
| (2)高知県の漁模様 | 低調 |
| (3)日本海の産卵親魚の漁模様 | 大好漁 （過去2番目の漁獲量） |
| (4)冬季の水温の予測 | 平年並み～高め |

これらの情報から、本県の漁期全体のヨコワの漁獲量は、**低水準（20トン未満）**となるでしょう。

ただし、近年3～4月に1～2kgサイズのまとまった漁獲が見られることもあり、今後、水技センターが発表する水温情報に注目してください。目安は、18～20 の水温帯です。

3 情 報

(1)漁海況に関する情報

(社)漁業情報サービスセンター発行の「九州沿岸域漁海況情報」では、黒潮～対馬暖流域の表面水温分布は、10月については停滞傾向で前年・平年と比較して「並～やや高め」、11月については降温傾向で前年・平年と比較して「並」で推移している。

当所が平成18年10月に発表した「鹿児島県の海況と浮魚魚類漁況の予報（平成18年度第3四半期）」によると、平成18年10月～12月にかけての海況のみとおしは次のとおり。

海流及び水系分布

薩南海域における黒潮北縁域の位置は、離接岸を繰り返しながら「屋久島南付近の平均的な位置」で推移する。

水 温

表層水温は、全海域・期間を通じて「**平年並み～高め**」で推移する。

(2)現在までのヨコワ情報

日本海方面

山口県：例年ヨコワは曳縄主体で漁獲され、11月～12月が盛漁期である。平成18年11月の水揚量は前年の1割以下、平年の2割以下と**低調**である。

島根県：10～11月にかけて曳縄で漁獲される日本海発生群と考えられる1kg弱の当歳魚については、**例年の7割弱**となっている。

新潟県：ヨコワは主に定置網により漁獲されるが、日本海発生群と考えられる1kg弱の当歳魚は**ほとんど漁獲されていない**。

対馬方面

10月中旬より曳縄漁が始まり、下旬まで太平洋発生群と考えられる2～3kgの1歳魚を主体に65kg/隻のペースで漁獲されたが、11月に入り漁獲がいったん途絶え、11月下旬から3～4kg主体に漁が再開されたものの、22～34kg/隻と**本格的な漁には至っていない**。

五島方面

12月中旬現在、まだ**漁は始まっていない**。

大中型まき網（松浦方面）

10月中旬より旋網によりヨコワが漁獲され始め、10月には183.9トンと**前年(334.2トン)を下回ったものの平年(68.5トン)は上回ったが**、11月には15.8トンと**前年(272.9トン)および平年(182.1トン)を大幅に下回っている**。

太平洋方面

宮崎県：12月中旬現在，ヨコワ漁は始まっていない。

高知県：7月12日頃(前年より7日遅い)から始まり，その漁獲尾数は約23,000尾で前年の約24,000尾，**平年の約33,000尾を下回った。**

鹿児島県沿岸域

笠 沙：笠沙～甑島海域での水族館用種苗のヨコワ採捕は，前年同様，8月中旬に開始された。水族館の注文数が500尾と少なく，早期に注文数を充足している。

平成18年： 500尾，平成17年：1,037尾，平成16年：1,661尾

平成15年：2,882尾，平成14年： 249尾，平成13年： 883尾

甑 島：11月下旬から，浮魚礁で2～3kgサイズの太平洋発生群と思われる1歳魚が，シビに混じり始めた。量は1日数本～30本程度とわずか。

(3)クロマグロ大型群に関する情報

太平洋方面

北部太平洋で今年，大中型まき網により漁獲されたクロマグロは，20kg以上の「マグロ」の漁獲量が570トン(前年：222トン)で対前年比257%と**大幅に増大**。20kg未満の「メジ」の漁獲量も1,264トン(前年：185トン)で対前年比683%と**大幅に増大**。

日本海方面

日本海の境港に今年，大中型まき網により水揚げされたクロマグロは，漁獲量1,778トン(前年：2,985トン)，漁獲尾数21,666尾(前年：46,114尾)で，過去最高の水揚げであった前年は下回ったものの，**漁獲量で過去2番目，尾数で過去3番目と3年連続の大好漁**となった。1尾当たりの平均体重は，80kg(前年：60kg)であったが，モードを見てみると，40kg(2002年生まれの4歳魚)，70kg(2000年生まれの6歳魚)と130kg(1998年生まれの8歳魚)の複数の年級群が混在している。

(4)本県における水揚げ量の経年変化

昭和60年度までは200トンを超える大好漁年と50トンに満たない年が交互に到来する周期性が伺えたが，昭和61年度を境にパターンが変化し，1～15トンの不漁年が8年間続いた。平成6年度以降は50トン前後の年と10トン未満の不漁年とが交互に到来しており，平成16年度には275トンと昭和53年度以来の200トンを超える大好漁となっている。

このように本県のヨコワ漁獲は，昭和60年度までの平均が100トンを超える高水準期，平成5年度までの平均が10トン未満で最大でも20トン未満の低水準期，平成6年度以降の平均が50トン程度の中水準期と3つに区分され，この区分から，漁獲量20トン未満を低水準，20トン以上100トン未満を中水準，100トン以上を高水準と設定した。

(情報及び資料の収集先)

本情報の作成にあたっては下記の団体及び機関から多大なる御協力をいただきました。
ありがとうございました。

甑島漁協・笠沙町漁協・南さつま漁協・枕崎市漁協・北部太平洋まき網漁業協同組合連合会
新潟県水産海洋研究所・鳥取県水試・島根県水試・山口県水産研究センター・高知県水試
長崎県総合水試・宮崎県水試
独立行政法人 水産総合研究センター遠洋水産研究所

鹿児島県水産技術開発センター

〒891-0315 指宿市岩本字高田上160番10

TEL : 0993-27-9212 , FAX : 0993-27-9218

E - m a i l : suisan@kagoshima.suigi.jp

U R L : <http://kagoshima.suigi.jp>

<http://kagoshima.suigi.jp/i/> (携帯電話)

下甑島沖浮魚礁音声情報サービス TEL : 0993-27-9233

漁海況週報FAX情報サービス

衛星画像(水温分布図) FAX : 0993-27-9234

漁海況週報 FAX : 0993-27-9235

